

平成二十五年入学者選抜試験
個別学力試験問題(前期日程)

国 語

注意

- 一、問題紙は指示があるまで開いてはいけません。
- 二、問題紙は十二ページ、解答用紙は一枚です。指示があつてから確認し、解答用紙の所定の欄に受験番号を記入すること。
- 三、答えはすべて解答用紙の所定のところに記入すること。
- 四、解答用紙は持ち帰ってはいけません。
- 五、試験終了後、問題紙は持ち帰ること。

一

次の文章を読んで、問いに答えよ。

(この部分につきましては、著作権の関係により、公開しません。)

(この部分につきましては、著作権の関係により、公開しません。)

(この部分につきましては、著作権の関係により、公開しません。)

(この部分につきましては、著作権の関係により、公開しません。)

(この部分につきましては、
著作権の関係により、公開し
ません。)

(竹内啓『偶然とは何か』による。なお、本文の一部を省略した。)

(注)

メンデル——一八二二～一八八四。オーストリアの生物学者。

離散的——数量が連続的でなく、とびとびになっているさま。

バステイユの襲撃——一七八九年、パリの民衆がバステイユ牢獄ろくを襲撃して破壊した事件。

ルイ十六世——一七五四～一七九三。フランス国王。

コルシカ——コルシカ島。ナポレオン・ボナパルト(一七六九～一八二一)の生地。

将校——兵士を指揮・統率する武官。

問一 傍線部1～5を漢字に書き改めよ。

問二 傍線部A「突然変異の起こり方には方向性はない」について、なぜ方向性がないかを簡潔に説明せよ。

問三 傍線部B「偶然の必然的な産物」を、わかりやすく説明せよ。

問四 傍線部C「歴史上の偶然とは、生物の進化の過程でたまたま新たな形質を生み出した突然変異のようなものである」について、「歴史上の偶然」と「突然変異」とはどのような点が類似しているか。本文に即して説明せよ。

問五 傍線部D「私は歴史の中には偶然の要因が実は強く働いていると思う」について、「ナポレオン」・「英雄」を必ず用いて具体的に説明せよ。

二

よ。
次の文章は、文字で書き表す習慣のない言語を話す「無文字の人々」について述べたものである。これを読んで、問いに答えよ。

(この部分につきましては、著作権の関係により、公開しません。)

(津田敏郎「言葉学……未知のコトバとの出会い」(1996)。

問 傍線部「文字」という文明の利器を手にしたのと引き換えに、失ったものもあるのではないか？」という筆者の見解に対してあなたはどのように考えるか。具体例や根拠を示しながら自分の考えを述べよ。(解答は解答欄をほぼ満たす程度とするこ
と。)

(下書用)

| | | | | | | |
|--|--|--|--|--|--|--|
| | | | | | | |
|--|--|--|--|--|--|--|

三

次の文章は、かつて堀河天皇(在位一〇八六—一一〇七)に出仕していた筆者が、亡き堀河天皇をしのびつつ、六歳の鳥羽天皇に仕えている場面である。これを読んで、問いに答えよ。

あまりなるまでかしくかせたまひし御ことば、思ひ出でざるに、御前におはしきて、「われ抱きて、障子の絵見せよ」とおほせらるれば、よろこばむる心地すれど、朝餉の御障子の絵、御覧せさせ歩くと、夜の御殿の壁に、明け暮れ目なれておほえむとおほしたりし樂を書きて、押しつけさせたま入りし笛の譜の、押されたる跡の、壁にあるを見つけたるぞ、あはれなる。

笛の音の押されし壁の跡見れば過さざることば夢とおほゆるかなしくて袖を顔に押しあつるを、あやしげに御覧すれば、心得させまらさじとて、さりびなくもてなして、「あへびをせられて、かく目に涙の淨きたる」と申せば、「みな知りてさかむらひ」とおほせむらさるるに、あはれたもかたじけなくもおほえさせたまへば、「いかに知らせたまへるぞ」と申せば、「ほもじのりもじのこと、思ひ出でたるなめり」とおほせらるるは、堀河院の御こととよく心得させたまへると思ふも、さうくして、あはれもなめゆる心地してぞ樂まする。

(『讃岐典侍日記』による。)

(注) かしづかせたまひし御こと——堀河天皇が筆者を寵愛なさっていたこと。

朝餉——天皇が朝食をとる部屋。 夜の御殿——天皇の寝所。

樂——樂譜。 押しつけ——(樂譜を壁に)貼りつけ。

押されたる跡——貼りつけてあった樂譜をはがした痕跡。 笛の音——笛の樂譜。

ほもじのりもじのこと——「ほ文字」と「り文字」で「堀」。堀河天皇のことを遠回しに表す。

堀河院——堀河天皇。鳥羽天皇の父。

問一 傍線部ア「よさじしなむる心地すれど」について、何かをなむる心地」がしたのかを明らかにして口語訳せよ。

問二 傍線部イ「あやしげに御覧すれば」を、主語を明らかにして口語訳せよ。

問三 傍線部ウ「なめり」を文法的に説明せよ。

問四 傍線部エ「笑まるる」について、その理由をわかりやすく説明せよ。

問五 この文章の出典は『讀岐典侍日記』である。この作品よりも後に成立した日記を次の中から一つ選び作品名を書け。

十六夜日記

和泉式部日記

蜻蛉日記

更級日記

土佐日記

四

次の文章を読んで、問いに答えよ。(設問の都合で送り仮名・返り点を省いたところがある。)

選^{ビテ}学生^ヲ而遣^{ハスハ}之^ヲ賡^ニ欲^ス使^ハ之^ヲ学^ブ聖賢^ノ之道^ヲ而成就^ス人才^也。阿部仲

麻呂、慕^ヒ唐^ノ之^ノ文物^ヲ、留^{マリテ}而不^レ帰^ラ、易^ハ姓名^ヲ、受^ク官^ノ爵^ヲ。是^レ蔑^ニ祖先^ヲ

而^ニ本^ニ也^ヲ。豈^ニ聖賢^ノ之道^ヲ哉^{ナラン}。世徒^タ眩^ニ于^ニ才藻^ニ、不^レ究^キ其^ノ本^ヲ、而^{シテ}歆^ム

豔^{スルハ}其^ノ為^{ルヲ}唐^ノ廷^ノ文士^ノ所^ト推^ス奨^{スル}過^ト矣^ト。藤原清河、通^ジ聘^シ結^ビ好^シ、遭^{ヒテ}風濤^ヲ

之^ノ險^ニ、竟^{シテ}不^レ能^ク帰^ル、亦^タ留^{マリテ}而^{シテ}仕^フ唐^ニ。凡^ソ我^ガ使^臣在^ル彼^ニ者[、]例^ニ授^セ官^ノ爵^ヲ、以^テ

寵^ス勳^ヲ之^ヲ、其^レ与^ニ仲麻呂^ニ有^レ間^ヘ哉^ト。

(安積澹泊『大日本史贊藪』による。)

(注) 才藻——文才。

歆豔——羨望する、慕いうらやむ。

通聘——結納を贈る、結婚する。

例授——例に従って授ける。

寵勳——いつくしみ、ねぎらひ。

問一 傍線部 a・b の読みを、送り仮名を含めて、すべて平仮名で記せ。現代仮名遣いを用いてもよい。

問二 傍線部 A は「之をして聖賢の道を学びて人才を成就せしめんと欲すればなり」と読む。これに従って返り点を施せ。

問三 傍線部 B の意味をわかりやすく述べよ。

問四 傍線部 C をすべて平仮名で書き下し文にせよ。現代仮名遣いを用いてもよい。

問五 傍線部 D の意味を、仲麻呂と清河の相違点と共通点とがわかるように、言葉を補って述べよ。